

3 期待値, 分散, モーメント

3.1 期待値

確率空間 (Ω, \mathcal{F}, P) は与えられているものとする. 確率変数の期待値あるいは平均値と呼ばれる量を定義しよう. 簡単な場合から順を追って定義していく.

1. 確率変数 X が有限個の値しか取らない場合.

a_1, a_2, \dots, a_n が X の可能な値の全体とする. このとき,

$$EX := \sum_{i=1}^n a_i P(X = a_i) = \sum_{i=1}^n a_i \mu_X(\{a_i\}) \quad (11)$$

で X の期待値 EX を定義する.

2. 確率変数 X が非負の値を取る場合.

$n \geq 1$ に対して有限個の値しか取らない確率変数 X_n を

$$X_n(\omega) := \begin{cases} \frac{k}{2^n} & \frac{k}{2^n} \leq X(\omega) < \frac{k+1}{2^n}, 0 \leq k \leq n2^n - 1 \text{ のとき} \\ 0 & \text{その他のとき} \end{cases}$$

と定義する. $n \rightarrow \infty$ のとき, $X_n(\omega)$ は単調に増大して $X(\omega)$ に収束する. このとき,

$$EX := \lim_{n \rightarrow \infty} EX_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^{n2^n-1} \frac{k}{2^n} \mu_X\left(\left[\frac{k}{2^n}, \frac{k+1}{2^n}\right)\right) \quad (12)$$

$EX < \infty$ のとき, X は可積分であるという. ルベーク積分の定義を思い出すと, (12) 式右辺は

$$\int_0^{\infty} x\mu_X(dx)$$

とかけることに注意する.

3. X が一般の確率変数の場合.

$$X^+(\omega) := \max\{X(\omega), 0\}, \quad X^-(\omega) := \max\{-X(\omega), 0\}$$

とおくと, この新しい確率変数 X^+, X^- はともに非負の値を取り, $X = X^+ - X^-$ とかける. X^+, X^- がともに可積分のとき X は可積分であるといい, このとき,

$$EX := EX^+ - EX^- = \int_{-\infty}^{\infty} x\mu_X(dx) \quad (13)$$

によって X の期待値 EX を定義する.

4. 確率変数 $Y = f(X)$ の期待値

f を ボレル可測関数とする. つまり任意の $A \in \mathcal{B}$ に対して

$$f^{-1}(A) = \{x \in \mathbf{R}; f(x) \in A\} \in \mathcal{B}$$

が成り立つとする. X が確率変数のとき,

$$Y(\omega) := f(X(\omega))$$

と定義すると, Y も確率変数になる. 実際, $A \in \mathcal{B}$ に対して

$$\begin{aligned} Y^{-1}(A) &= \{\omega \in \Omega; f(X(\omega)) \in A\} = \{\omega \in \Omega; X(\omega) \in f^{-1}(A)\} \\ &= X^{-1}(f^{-1}(A)) \end{aligned}$$

で, f の可測性から $f^{-1}(A) \in \mathcal{B}$ で, X は確率変数なので, $X^{-1}(f^{-1}(A)) \in \mathcal{F}$ となり, $Y^{-1}(A) \in \mathcal{F}$, つまり Y も確率変数となる.

$f \geq 0$ のとき, EY を求めてみると,

$$\begin{aligned} EY &= \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^{n2^n-1} \frac{k}{2^n} P\left(\frac{k}{2^n} \leq f(X) < \frac{k+1}{2^n}\right) \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{k}{2^n} \mu_X\left(f^{-1}\left(\left[\frac{k}{2^n}, \frac{k+1}{2^n}\right)\right)\right) \\ &= \int_{-\infty}^{\infty} f(x)\mu_X(dx) \end{aligned} \quad (14)$$

となる．ルベグ積分の定義と同じである．したがって，一般の f に対しては $f = f^+ - f^-$ と分解して， $f^+(X), f^-(X)$ がともに可積分ならば $f(X)$ は可積分であるといい，

$$Ef(X) = Ef^+(X) - Ef^-(X) = \int_{-\infty}^{\infty} [f^+(x) - f^-(x)]\mu_X(dx)$$

で与えられる．

3.2 モーメント，分散

$n \geq 1$ に対して， $f(x) = x^n$ のとき， $Ef(X) = EX^n$ が定義できるとき，これを X の n 次のモーメントと呼ぶ．平均を引いて考えるとき， $E(X - EX)^n$ を X の n 次の中心化モーメントと呼ぶ．特に $n = 2$ のとき， $E(X - EX)^2$ は X の分散と呼ばれる重要な量で $\text{Var}(X)$ と表される．

例 3.1 X を正規分布 $N(m, \sigma^2)$ ($\sigma > 0$) に従う確率変数とするこのとき $EX = m, \text{Var}(X) = \sigma^2$ となる．実際，(13), (14) により

$$\begin{aligned} EX &= \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \int_{-\infty}^{\infty} x e^{-\frac{(x-m)^2}{2\sigma^2}} dx \\ &= \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^{\infty} (y\sigma + m) e^{-\frac{y^2}{2}} dy \quad \left(y = \frac{(x-m)}{\sigma} \text{ と変数変換} \right) \\ &= 0 + m, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{Var}(X) &= \frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}} \int_{-\infty}^{\infty} (x-m)^2 e^{-\frac{(x-m)^2}{2\sigma^2}} dx \\ &= \frac{\sigma^2}{\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^{\infty} y^2 e^{-\frac{y^2}{2}} dy \quad \left(\text{上と同じ変数変換} \right) \\ &= \frac{\sigma^2}{\sqrt{2\pi}} \left(\left[-ye^{-\frac{y^2}{2}} \right]_{-\infty}^{\infty} + \int_{-\infty}^{\infty} e^{-\frac{y^2}{2}} dy \right) \\ &= \sigma^2 \end{aligned}$$

例 3.2 X をパラメータ $\lambda > 0$ のポアソン分布に従う確率変数とする。このとき、 $EX = \lambda, \text{Var}(X) = \lambda$ である。実際、

$$\begin{aligned}
 EX &= \sum_{n=0}^{\infty} n \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} \\
 &= \lambda \sum_{n=1}^{\infty} \frac{\lambda^{n-1}}{(n-1)!} e^{-\lambda} \\
 &= \lambda \\
 \text{Var}(X) &= \sum_{n=0}^{\infty} (n - \lambda)^2 \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} \\
 &= \sum_{n=0}^{\infty} (n^2 - 2\lambda n + \lambda^2) \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} \\
 &= \sum_{n=0}^{\infty} n^2 \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} - 2\lambda^2 + \lambda^2 \\
 &= \sum_{n=2}^{\infty} n(n-1) \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} + \sum_{n=1}^{\infty} n \frac{\lambda^n}{n!} e^{-\lambda} - \lambda^2 \\
 &= \lambda^2 + \lambda - \lambda^2 = \lambda
 \end{aligned}$$

問題 3.1 2項分布 $B(n, p)$, (n は自然数, $0 < p < 1$) に従う確率変数の平均と分散を求めよ。

問題 3.2 パラメータ $\lambda > 0$ の指数分布に従う確率変数の平均と分散を求めよ。ヒント：密度関数は $\lambda e^{-\lambda x}$ なので、例えば平均は

$$\int_0^{\infty} x \lambda e^{-\lambda x} dx$$

を計算する事になる。

問題 3.3 *advanced course*

コーシー分布に従う確率変数には平均が定義できないことを確かめよ。

ヒント：

$$EX^+ = \int_0^{\infty} \frac{a}{\pi} \frac{x}{a^2 + x^2} dx$$

(この問題は興味のある人だけ解けばよい。—提出不要)